

1. 今日は“母の日”です。聖書は、お父さんやお母さんを大切にすることを教えていますよ。
みなさんはどうですか？ お母さんを大事に思っているでしょう？ みんな、お母さんが大好きだよ？
ところが…「お母さんなんて、大っ嫌いっ！」という子がいるんです…
2. さっちゃん、一年中で、母の日が一番嫌い。ほらね、つまらなさそうな顔をしているでしょう？
3. 「あたし、お母さんが大っ嫌い。だって、だって…お母さんの顔は、オバケみたいなんだもの。
えっ？ どこがオバケみたいなのかって？ そう、こっちから見たら分かんないんだけど、反対から見たら…。」
4. 「ね、ヒドイ顔でしょう？ 何か知らないけど、大きなヤケドのあとみたいなものがあるの。」
5. 「だから私、そのことで皆にいじめられるの…。『や～いや～い、お前の母さん、オバケみたいだな。
ヒドイ顔だ。お前のお母さんの顔を見ると、怖くて夜眠れなくなるよ。や～いや～い、お前はオバケの子供だ～。
近寄るな～、みんな近寄るなよ～！！』
そしてとうとう耐え切れなくなったさっちゃんは、お母さんにこんなことを言ってしまいました。
6. さっちゃん「お母さん、お母さんはどうしてそんなヒドイ顔なの？ あたし、恥ずかしくて恥ずかしくて、
もう学校になんて行けないっ！ お母さん、これからはもう絶対にみんなの前に顔を出さないで
ね。いい？ わかった？」
お母さん 「ごめんね、さっちゃん…そんなに傷ついていたのね。ゴメンナサイ…」
さっちゃん「ゴメンナサイじゃないわよ。だいたいお母さん、何でそんな顔なの？
みんなお母さんのことをオバケだって言ってるわ！」
お母さん 「そう…ホントにオバケみたいですね。仕方ないわ…ゴメンナサイ。でも、あなたがそんなに
この顔をことを知りたいなら、今まで黙っていたけど、お話しするわね。」
7. お母さん 「あなたがまだ赤ちゃんだった時、お母さんはまだこんな顔じゃなかったの。そしてある日、お母
さんは晩ごはんスープを作ったの。あなたは赤ちゃんだったし、熱いスープだから気をつけながら
作ったわ。」
8. お母さん 「ところがお母さんがちょっと目を離したすきに、あなたはハイハイしながらスープのそばまで
来てしまったの。そして、そこに手をかけてしまって、スープがこぼれそうになったの。そして私
はその瞬間…。」
9. お母さん 「『危ないっ！』と叫んで、スープを全身にかぶりそうになったあなたの上に必死に覆いかぶさっ
たわ。そうなの、それで、何とかあなたを助けることが出来たわ。」
10. お母さん 「でもね、その時に、私がその熱いスープをかぶってしまったの。だから、お母さんは顔に
大ヤケドを負ってしまって、こんなにヒドイ顔になっちゃったのよ。でも、あなたが何ともなくて
ホントに良かった。私の顔はこんなになってしまって、あなたに悲しい思いをさせてしまっている
けど、あなたは元気だから、ホントに良かったわ…。」
お母さんは、そう言って、さっちゃんに向かって微笑みました。
11. さっちゃん「お母さん、ゴメンナサイ！ あたし、何も知らなかった。お母さんは、あたしのためにそんな
顔になっちゃったんだね。ゴメンナサイ、ホントにゴメンナサイ。そしてお母さん、ありがとう!!」
12. さっちゃんは、本当のことを知りました。そして、母の日の喜びを、初めて知ったのです。

「あなたの父と母を敬え」出エジプト記20:12

聖書は、お母さん、そしてお父さんを大切にすること、敬うことを教えています。神様は、君のことを愛して
いるでしょう？ そして、お母さんも、お父さんも、君のことを心から愛しています。だから君も、その愛に感
謝して、お母さんやお父さんを大切に、敬い、愛することを続けていきましょうね。

13. それからというもの、さっちゃんはお母さんの顔が大好きになりました。そして、あのいじめっ子たちにも、
お母さんのことを自慢したのです。そうしたらどうでしょう、あれだけいじめていた男の子たちも、さっちゃん
の話を感じて聞くようになりました。

「あたし、お母さんの顔がだ～い好き！ あたしにとっては、世界で一番美しい顔。神様、こんなに素晴らしい
お母さんを与えてくださって、本当にありがとうございます！」

さっちゃんは、とっても大切なことを知ったんだね。良かったね。めでたし、めでたし